授業数管理サイト

D209長田　拓真（プログラム、デザイン発案）

D215後上　空　（プログラム、アイデア提起）

D235水野　友貴（発表用スライド制作、プログラムテスト）

東京電子専門学校　情報処理科

２０２２年度　卒業制作

（２０２５年　２月日提出）

目次

第1章　はじめに３

１．１　背景３

１．２　目的３

　１．３　作成目標 ３

第２章　システムを実現する上で４

２．１　システム環境４

２．２　使用言語の考察４

　２．３　操作説明４

２．３．１　操作手順５

２．３．２　注意事項６

第３章　実現方法７

３．１　モジュール構造７

３．２　データ構造８

３．３　アルゴリズム9

第４章　おわりに１１

４．１　問題点１１

４．２　今後の課題１１

1. **はじめに**

**１．１　背景**

生徒側の管理不足などで単位を落としてしまうトラブルの発生を未然に防ぐため　　　　　　　　　　に制作したいと感じ、更に就職活動などでスケジュールの管理が必要になると考え、よりスケジュール管理を円滑に、利便性を高めたいと考えた結果このサイトの製作に至りました。

**１．２　目的**

授業数の管理をより正確にすること。

HTMLの復習、Javascriptの基礎を学ぶため。

生徒の出欠の管理不足で単位を落としてしまうトラブルを未然に防ぎたいから。

**１．３　作成目標**

欠席数を管理できるサイトを作る。

スマホと㍶両対応を目指す。

課題管理や授業で言われる大事なこと（テスト範囲など）のためのメモ機能をつける。

カレンダーを使用してスケジュール管理。

出席回数カウントの合計も確認できる項目を作る。

**２．システムを実現する上で**

**２．１　システム環境**

使用環境はVisual Studio Codeや Microsoft Edge、

使用言語はHTMLやCSS、 Javasctiptを使用し製作しました。

**２．２　使用言語の考察**

　　 主にVisual Studio Code を使用し、

ホームページはHTMLやCSS、

カウンターページはHTML、CSS、Javascript

カレンダーや欠席表ページはHTML、CSS、Javascript

を使用し作成しました。

HTMLでは基本設定やid、class属性の付与を重点的に行い、

CSSでは文字サイズの変更、HTMLやJavascriptで設定した

属性ごとの設定の追加、

Javascriptではクリック時の処理、Localstorageを使用した

データ保存の作成、数字カウンターやデータの受け渡し、

HTMLやCSSで設定のできない属性の付与を設定します。

**２．３　操作説明**

まず、ホームページから欠席した授業の曜日を選択します。

つぎに、選択した曜日のページでカウント機能を使用し、授業名を

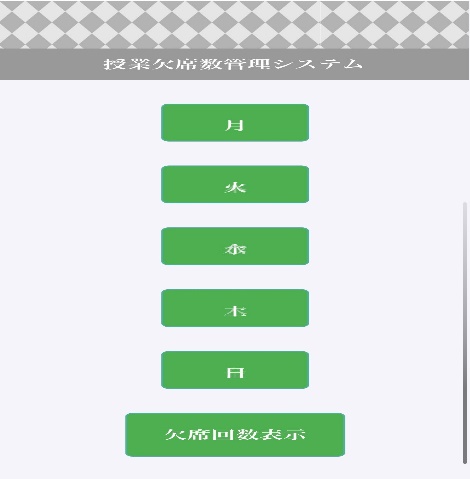
入力してから休んだ回数分だけ数値をプラスしていきます。

最後に「送信」ボタンを押すことで表形式に欠席した授業の欠席数が

一括表示されます。

なお、欠席数が4回以上になると注意のアラームが表示され、

送信後の欠席表で赤い数字で出力されます。

**２．３．１　操作手順**

まず、授業欠席数管理システムのサイト

を開き、休んだ科目の曜日を月～日の

ボタンから選択します。

**月曜日を選んだ場合**

月曜日を選択すると、

このような画面が出てきます。

****　　時間割１の下の長方形の空欄

　　に授業名を書き込むことができ、

画像では「あああ」と表示されます。

欠席数は下の「＋１」「－１」

ボタンで管理できるように

なっており、

左上の戻るボタンでホームに

戻ることができます。

**メモ機能**

****一番下までスクロールすると

メモ機能があり、四角の

　　空欄にメモを書き込めます。

　　また、その下の保存ボタンで

内容を保存することができ、

クリアボタンで

メモを消すことができます。



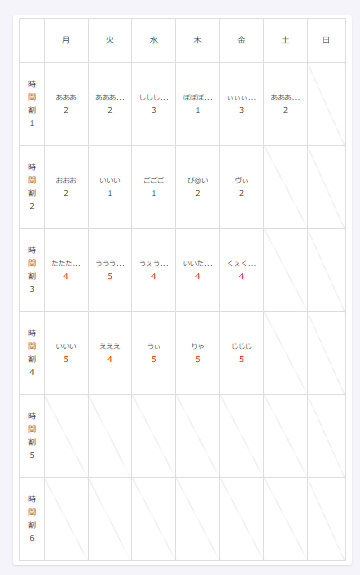
**欠席回数の表示**

一番下の「送信」または、

　　ホームページの「欠席回数表示」

を押した際、カレンダーと

欠席回数表が表示されます。

****

**２．３．２　注意事項**

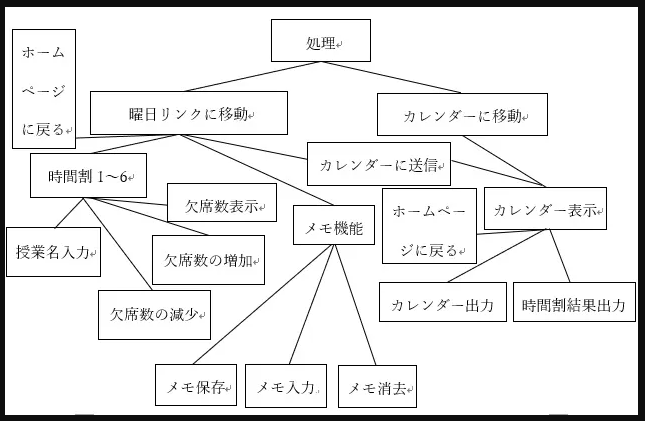
スマートフォンを別の機種に変えるなどをして、端末を変更するとLocalに保存されていた内容が消去され、１からやり直しになるため注意しましょう。

また、PCから拡大、縮小すると画面が引き伸ばされ、操作画面がおかしくなる場合があるためこれまた注意が必要です。

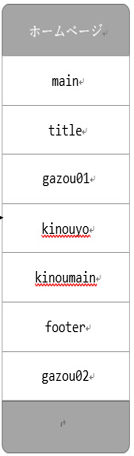
また、カレンダーの出力サイズに限度があるため、出席回数カウントの結果で表示できる文字数は３文字までです。

**３．実現方法**

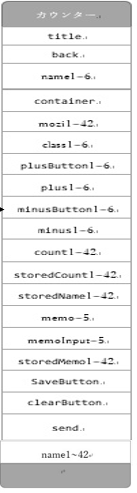
**３．１　モジュール構造**

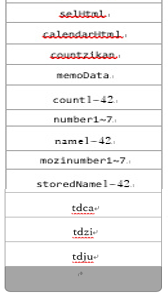
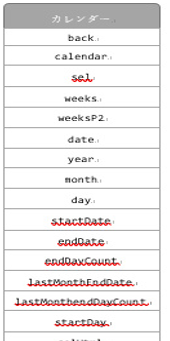
****

**３．２　データ構造**

****



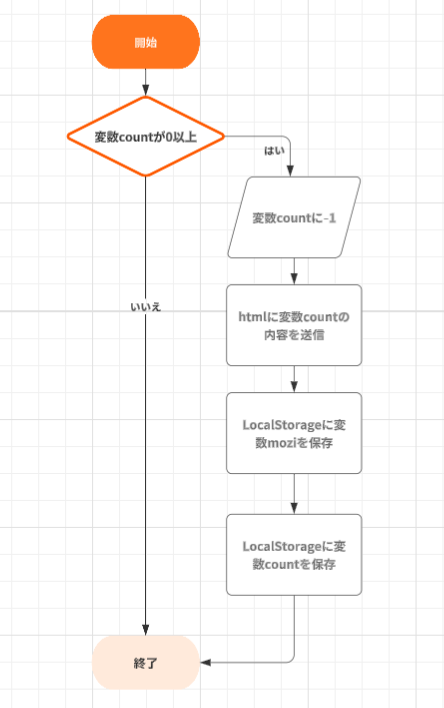
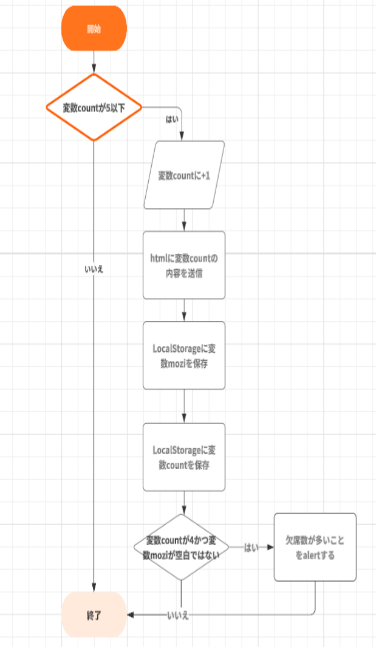
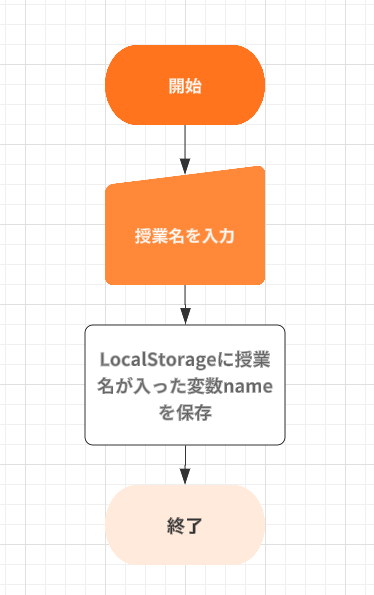
****



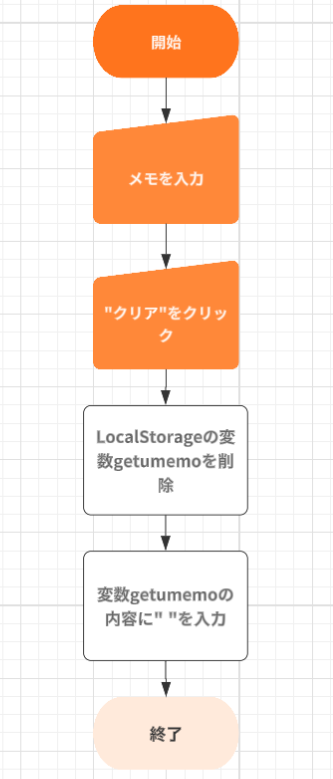
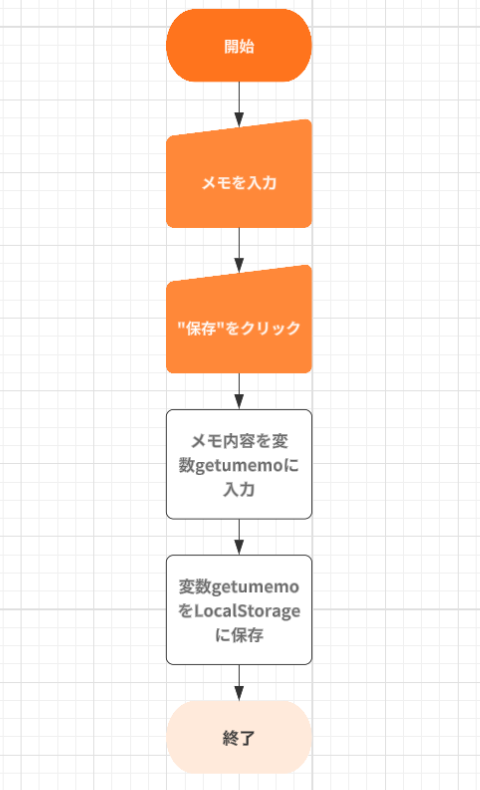
**３．３　アルゴリズム**

**３．３．１　カウンター**

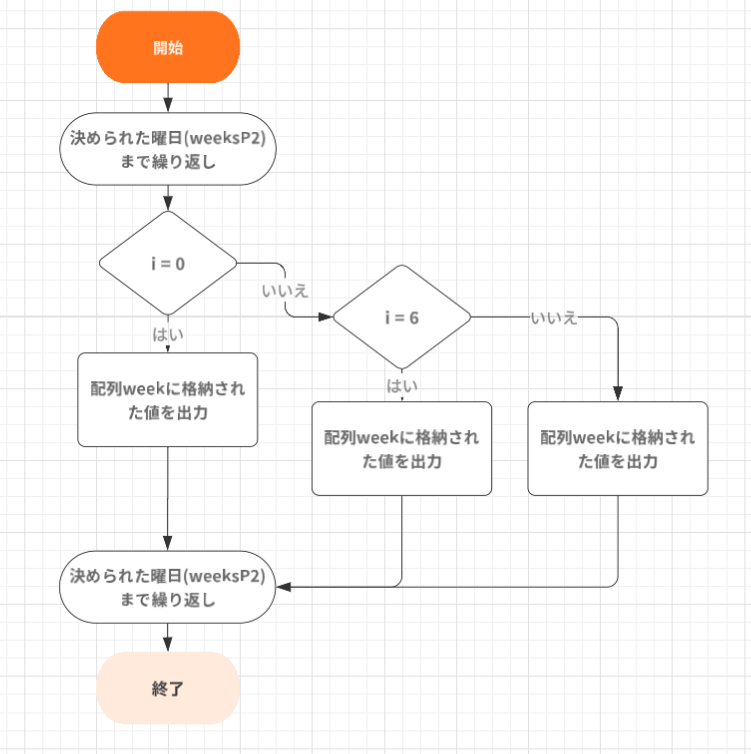
**授業名入力 ＋ボタン －ボタン**



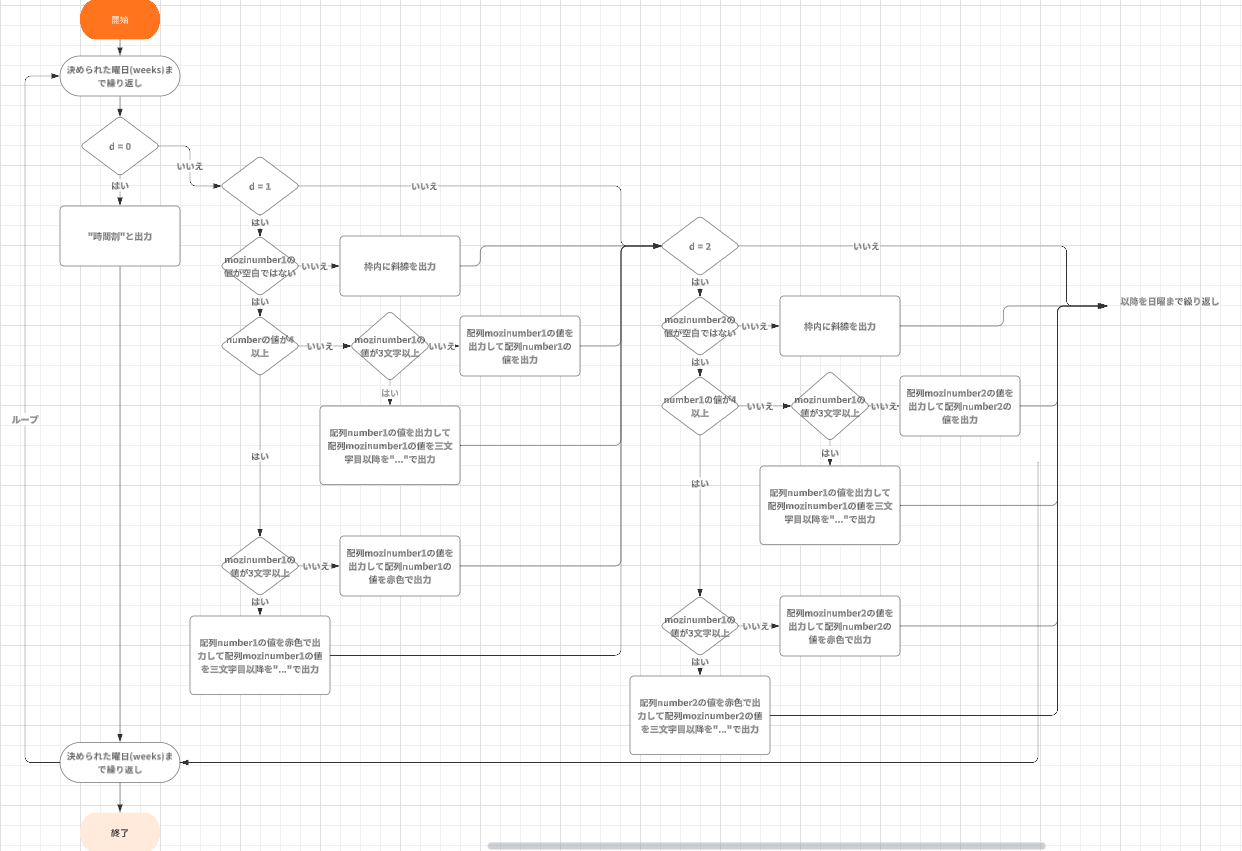
まずは、「授業名入力」の説明です。



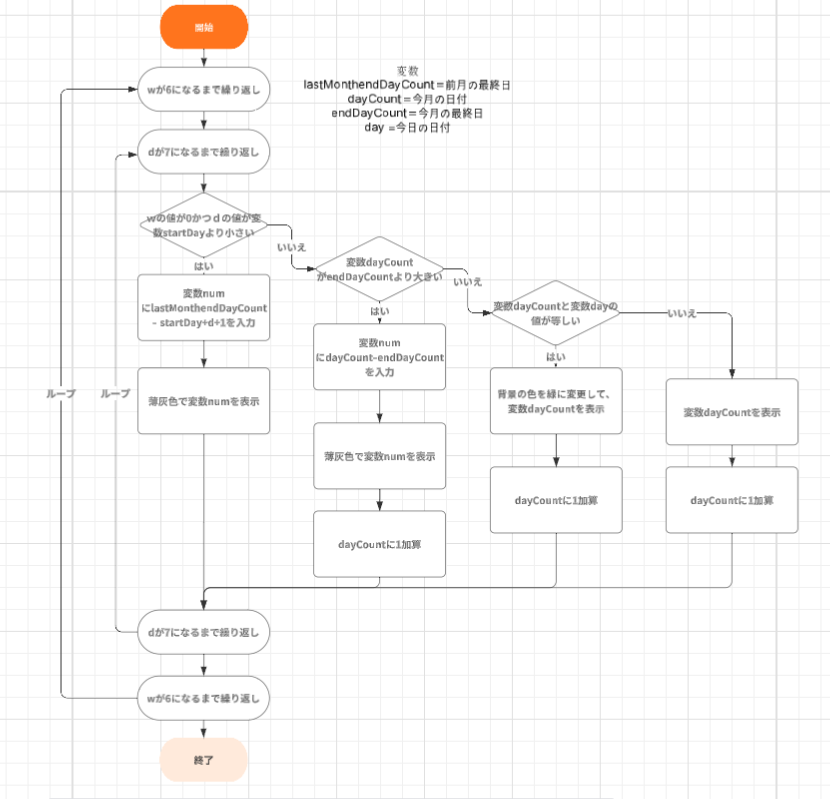
**曜日の出力部分**

****

**欠席数の表示部分**



**カレンダーの表示部分**



**４．おわりに**

**４．１　問題点**

* 出席回数カウントの結果が３文字以上表示出来ない。
* 端末を変えてしまうと１からやり直しになってしまう。
* PCから拡大、縮小すると画面が引き伸ばされてしまう場合がある。

**４．２　今後の課題**

* カレンダーを使用して、より見やすいようにレイアウトを整理する。
* 機能のよりよい改善。
* 端末を変えても状態を維持できるようにする。
* PCからサイトを開いた際に、拡大や縮小をした際、画面が引き伸ばされてしまう原因を突き止め、改善する。
* 出席回数カウントの結果を３文字以上表示出来るようにする。